

カトリック河原町教会だより

2018年11・12月



今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。
この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって
飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。
これがあなたがたへのしるしである。

(ルカ2章11-12節)

2018年 河原町教会 クリスマス

◆クリスマスチャリティーコンサート	12月16日(日)	14:30
◆クリスマス市民の集い	12月24日(月)	18:30
◆主の降誕夜半ミサ	12月24日(月)	21:00
◆主の降誕ミサ	12月25日(火)	7:00・10:30 13:00(英語)

「キリストの降誕」カラヴァッジョ作(1609年/サン・ロレンツォ同信会祈祷堂)

あなたたちは聖なる者となりなさい

「あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主であるわたしは聖なる者である」(レビ記19章2節)。

わたしたちは、この招きに応えるために生きている。この地球で、世界で、日本の社会で、わたしたちの地域で、教会共同体で生きている。この招きに応えようと、日々もがいている。

「聖なる者」となるために、何をしたらよいか。「心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」(レビ記19章17-18節)という言葉を実際に受け止め、生きていけばよい。

ここで注意しなければならないことは、この言葉、隣人愛の掟には、続きがあるということである。

「寄留者があなたの土地に共に住んでいるなら、彼を虐げてはならない。あなたたちのもとに寄留する者をあなたたちのうちの土地に生まれた者同様に扱い、自分自身のように愛しなさい。なぜなら、あなたたちもエジプトの国においては寄留者であったからである。わたしはあなたたちの神、主である」(レビ記19章33-34節)。

今のわたしたちにとって、「寄留者」とは誰のことだろうか。自分が知ろうとしない他者、自分が理解しようとする他者、自分が関わろうとしない他者……気がつけば、わたしたちは、互いを寄留者として扱っている。人や

洛東ブロック担当 一場 修 神父

モノ、情報の動きが速くなればなるほど、広がっていきばいくほど、互いがますます寄留者になっていく……寄留者として生きる苦しみを体験しながら、互いに隣人となることができずもがいている。あるいは、寄留者として生きる痛みを感じることがゆるされないほど、わたしたちは追いつめられているのかもしれない……。

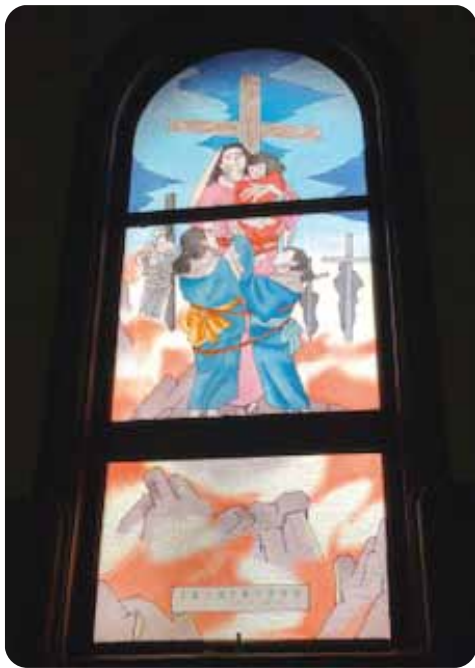
こうした相互寄留者化という状況にあって、わたしたちは今、互いに隣人になっていくように、隣人になっていくことで、「聖なる者」となるように励まされている。

教皇フランシスコの使徒的勧告『喜びに喜べー現代世界における聖性』の中に、次のような励ましの言葉がある。「主があなたを招かれているこの聖性は、小さな行動を通して成長します。たとえば、ある女性がい物中に近所の人と会い話出して、陰口になったとします。でもその人は心の中でいいます。『いけない。人のことを悪くいわないようにしないと。』これが聖性の一歩です。今度は家で子どもが、空想の話を聞いてほしいと、とても疲れてはいたものの、傍らに座ってじっと優しく話を聞いてあげます。これもまた聖性をもたらすもう一つのもです。……そして今度は通りに出て、貧しい人に気づくと、立ち止まって優しく話をする。これもまた別の一歩です」(同勧告 16)。

わたしたちは、この言葉を心に刻み、「聖なる者」となる歩みを続けていきたい。



殉教者に学ぶ 人の弱さと委ねる心 ～京都の大殉教～



10月7日(日)10時半から、河原町教会において、大塚司教の司式により「福者京都52殉教者列福10周年感謝ミサ」が捧げられました。

ミサの中で大塚司教は、「私たちは聖人たちの列聖を祈り求めなければなりません。52名の殉教者の中には多くの子どもも含まれています。信仰とは何か、殉教とは何かを問われています。」と話されました。そして、「殉教者は決して強い人間だったのではなく、自分の弱さを感じたからこそ、あわれみの神さまに委ねることができました。幼な子のように自分を守る術を知らない弱い人間、何も持たない人間、神さまに身をまかせる、という姿が神さまの前に出る姿です。自分のふさわしさを求めるほど傲慢になっていきます。私たちは弱いから薬や栄養(ご聖体)を頂く、という謙虚な気持が大切です。」と話されました。

改めて殉教者を思い起こし、幼な子のように神さまに身を委ね、神さまのはからいの道を歩む力を頂けるよう祈り、閉祭しました。

(左) 橋本親子殉教者 (伏見教会)

(説教要約: 広報部員)

はるかに流れる鴨川の 六条河原の殉教者

テクラの腕の幼な子は イエズスマリアの御名を呼ぶ

炎の中にさらされた 橋本太兵衛ら52名…… (ペトロ岐部と187殉教者賛歌)

1619年10月6日、鴨川の六条から七条の間、現在の正面橋のあたりで、將軍秀忠の命により、52人の信者が火あぶりの殉教を遂げた。うち11人は子供であった。日本の教会の殉教史で大殉教と呼ばれる殉教は三つである。1622年9月10日の長崎の殉教、1623年12月4日の江戸の殉教、そして京都の大殉教である。

京都の大殉教については、詳しい記録があるにも係わらず、長く放置されていた。しかし、この大殉教は、さまざまな意味で深い意義がある。これは日本の幼児の殉教であり、若い母親の奉献であると言えるであろう。

1994年8月、鴨川のほとりに記念碑が建てられた。美しい鞍馬石に「元和(げんな) キリシタン殉教の地」と刻まれている。

(カトリック中央協議会ウェブサイトより抜粋)



寄稿

日本キリスト教団京都丸太町教会 「元和キリシタン殉教地」を巡礼する

「ペトロ岐部と187殉教者」の列福から10年経ったが、その中にヨハネ橋本太兵衛(ジョアン)ほか51名の京都の殉教者もふくまれていた。

「日本キリスト教団京都丸太町教会」で結城了悟神父の『京都の大殉教』の本を読んで是非、刑場の鴨川の河原を訪ねたいと希望される多くの方々の依頼を受け、河原町教会の嶋崎が担当し案内することになった。嶋崎は川端正面の現地に「元和キリシタン殉教の碑」を8年がかりで京都市と交渉して建てた4人のメンバー唯一の生存者である。

9月24日朝9時半より丸太町教会で元和の大殉教について30分の講話、その後テレビ長崎で制作した列福記念番組「絆・遠い日の家族たち」を鑑賞して大型バス1台で巡礼に出発した。「京都の大殉教」は將軍徳川秀忠の命令で火あぶりの刑で殉教してから来年で400年、今年6月には日本バプテスト連盟の牧師夫人30名にも河原町教会でお話しする機会もあった。このようにカトリック以外のキリスト教団の人々の関心があるということは私たちカトリック関係者にとっても良いことであろうと思われる。

(嶋崎 賢児 平成30年9月27日)

敬老感謝ミサ・懇親会

9月16日(日)10時半 爽やかな秋晴れの下、75歳以上の方々をお招きし、一場神父司式にて「敬老感謝ミサ」が行われました。出席者約115名は、一場神父から心温まる祝福のお言葉をいただきました。

ミサ後は、ヴィリオンホールにおいて懇親会が開催されました。一場神父の挨拶と祈り、小林勝彦氏による乾杯の音頭で、楽しい会食と歓談が始まり、途中、平野慶紀氏・瀧野徳太郎氏(最高齢101歳)・藤田安英氏と3人の方の興味深いお話がありました。

会食が一段落したところで、参加者全員で聖歌や日本の歌を合唱し、昨年行われた明治村旧聖堂ミサの映像を鑑賞しました。約71名の参加者は、信仰の喜びのうちに、和やかなひとときを過ごしました。



一場神父ミサ説教より

「老」の文字には、徳の意味があり、立派な資質と行いを表します。「老い」とは、正しい日々を長く送ってきたことを示しています。信仰は、頭で理解するものではなく、日々「生きる」ことです。イエス様は信仰者の困難や苦しみを、十字架にたとえられました。日々の十字架を「生きる」ことによって、愛と信仰が深まっていきます。老いることは、キリスト者に深い愛と信仰をもたらすのです。今日、敬老の日を迎えられた方々は、人生から真の幸いを学び、神から祝福された方々です。これからもイエス様と共に、「生きる」信仰の道を歩み続けてくださることを、心から願っています。

(要約：広報部員)

病者を思い 共に祈る ～病者のためのミサ～



10月7日(日) 9時から山科教会において、ユン・サンホ神父司式の洛東ブロック合同「病者のためのミサ」が捧げられました。74名が参加し、全世界の病気で苦しんでいる人やその家族のために共に祈りました。

病者の回復を願い、各小教区で250羽ずつ折った千羽鶴を当日捧げました。後日、広島市の平和公園に山科教会の方が持って行ってくださいました。

(4ページへ続く)

洛東ブロック合同 病者のためのミサ

ユン神父は説教にて「神に従い、委ね、信頼して生きることが信仰であり、たとえ病がなおらなくても平安と喜びがある」と語られました。そして、「復活のキリストとの出会いを体験した人のみ信じることができる、救われる」と励まされ、心を開いて神の恵みに満たされ、感謝し、共に祈ることの大切さを説かれました。

ミサ後には和やかに茶話会のひとときがもたれました。

(説教要約: 広報部員)



第 39 回

京都南部

ウォーカソン

11月3日(土)、晴天に恵まれ、第39回京都南部ウォーカソンが開催されました。

今年の支援金は東日本大震災被災者支援およびアフリカのルワンダ国NGOムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクトとバングラデシュ・ラルシュコミュニティに贈られます。神父、信徒や教会学校の子どもたちをはじめ、幼稚園、小学校、中学校、高等学校から、またその家族、スタッフも合わせて、総勢約530名が参加しました。



河原町教会での開会式、そして出発！ 最高気温20度超えの秋晴れでした。

～土曜学校参加報告～

今年もウォーカソンに参加しました。土曜学校では、事前にウォーカソンの支援先に直接関わりのある方に来ていただき、勉強会を行っています。今年は、支援先の一つ、「ごはん基金：バングラデシュ・ラルシュコミュニティ」について、かつてバングラデシュで医療活動に携わっておられ、現在もバングラデシュとラルシュコミュニティに関わっておられる、河原町教会所属の斎藤洋子さんにお話をうかがいました。現地のスライドを見ながら、バングラデシュはどこにあって、どんな国で、人々がどんな暮らしをしていて、どんな支援が必要なのか、また日本とどんなつながりがあるのかなどを学びました。

また、10月21日・28日の7時のミサと10時半のミサ後、スポンサー集めを行いました。たくさんの方が土曜学校のスポンサーになってくださいました。

ウォーカソン当日は、お天気にも恵まれ、合計14名が参加、バングラデシュのお友達の笑顔を思い出しながら、楽しく元気に歩きました。教会の皆様のご協力に感謝いたします。

(教育部／奥埜さと子)



洛東ブロック 中高生のつどい&青年のつどい

10月13日(土)～14日(日)、洛東ブロック合同教育部会主催「中高生のつどい&青年のつどい」が、桃山教会において行われました。洛東ブロック合同教育部会では、若い世代の信仰育成に取り組んでいます。今年は特に、「2018年度洛東ブロック年間計画 1. 小学生から高校生までが集まる場を用意し、地球環境に関する意識を高める。青少年が集まる場、ブロック合同の子どもとともにささげるミサを企画する。」(教会だより3・4月号既載)の具現化として行われました。



今回の「中高生のつどい」のテーマ“**ラウダート・シ 水**”で、指導は菅原神父様、参加者は、高校生2名、中学生5名で、合計7名、また、青年リーダーは5名で、食事や布団など、諸々のお世話を、主に桃山教会の皆さんがしてくださいました。2日目は、桃山教会の主日のミサに与り、このミサから約10名の青年たちが合流しました。そして、ミサのあと、中高生と青年、スタッフが一緒に鍋パーティーで盛り上がりました。



中高生のつどい、今回のテーマは、“**水**”でしたが、そのメインキャストは“**河童**”でした。

豊臣秀吉が伏見城を築いた地にある桃山教会、「水と酒のまち伏見」にあって、“水”と深い関わりのあるこの地で、水から河童(黄桜のイメージキャラクターでもある)を連想し、河童から神様を考えました。

【プログラム】

～1日目～

桃山教会集合→自己紹介→神父様のお話→桃山教会出発→濠川沿いを歩いて→月桂冠大倉記念館→右近信仰の小路→黄桜河童資料館:神父様の説明を聞きながら見学→大手筋で夕食→桃山教会帰着→DVD視聴→神父様のお話→夜食(かっぱ巻き作り)

～2日目～

朝食→ミサの準備・役割確認→ミサ(青年合流)→昼食(鍋)&交流会

☆中高生の感想文より

神父様からの問いかけ

「河童(神)とは何か? 河童(神)は本当にいるのか?」

- ・「河童はいない」と思っていたが、資料館に行くと、全国各地に目撃情報や記録が残っていることがわかり、河童は本当はいるのかもしれないと思った。河童を神様に置き換えたなら神父様に言われ、自分が初めて神様という不思議な存在を信じていることに気づいた。
- ・「信じる」ということは、とても大切なことだと、この合宿を通して考えた。人間は、なぜ何かを信じるのか。つらいこと、苦しいことがあっても、何かを信じるのが、人間の心の支えになるのではないか。
- ・「信じる」とは、どういうことなのかを考えた。何か写真や証拠があるから信じるということでもない、何もなくてもただ信じるということもあることがわかった。
- ・河童がいると信じることは、目に見えないものを信じること。DVDで観た少年は、河童を信じ、河童に会うために水泳がうまくなった。私たちは、目に見えない神様に会うためにミサへ行く。宗教は違っても、みんな天国へ行くために信仰生活をすごせたらと思う。
- ・「信じる」ことは、勇気をもらうこと、目標ができることだと思った。

(教育部/奥埜さと子)



◇ 2018年11月～2019年1月の行事予定 ◇

(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行 事 予 定
11	1	木	[諸聖人]
	2	金	[死者の日] 諸死者追悼ミサ18:30
	3	土	第39回京都南部ウォーカーソン
	4	日	[年間第31主日] 評議会11月例会10:30ミサ後 物故者追悼ミサ(衣笠教会)14:00
	11	日	[年間第32主日] 七五三お祝い10:30ミサ
	18	日	[年間第33主日] 貧しい人のための世界祈願日
	25	日	[王であるキリスト] (年間第34主日)
12	1	土	待降節黙想会 / 2019年度教会役員選挙投票日18:30ミサ後
	2	日	[待降節第1主日] 評議会12月例会10:30ミサ後 2019年度教会役員選挙投票日7:00・10:30ミサ後
	3	月	[聖フランシスコ・ザビエル司祭] 司教座聖堂献堂記念ミサ10:30
	8	土	[無原罪の聖マリア]
	9	日	[待降節第2主日] 菅原神父霊名〈アンノ12/5記念日〉のお祝い 7:00ミサ
	16	日	[待降節第3主日] クリスマスチャリティーコンサート14:30
	23	日	[待降節第4主日] 教会美化デー
	24	月	クリスマス市民の集い18:30 / 主の降誕夜半ミサ21:00
	25	火	[主の降誕] ミサ7:00・10:30・13:00(英語)
	30	日	[聖家族] ユン神父霊名〈使徒ヨハネ12/27記念日〉のお祝い 10:30ミサ
1	1	火	[神の母聖マリア] 元旦ミサ7:00・10:30 世界平和の日
	6	日	[主の公現] 評議会1月例会10:30ミサ後
	13	日	[主の洗礼]
	20	日	[年間第2主日]
	26	土	洛東ブロック会議(山科教会)
	27	日	[年間第3主日] 村上神父霊名〈トマス・アクィナス1/28記念日〉のお祝い 10:30ミサ 河原町教会総会 10:30ミサ後(ヴィリオンホール) キリスト教一致祈祷週間 超教派合同礼拝 16:00 (日本ナザレン教団上京教会)

「マリアの賛歌」より

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
身分の低い、この主のはしめにも
目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人にもわたしを幸いな者と言うでしょう、
力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。

(ルカ1章47-49節)

ぶどうの会 手作りバザー

12月9日(日) 河原町教会 10:30ミサ後

支援先:社会福祉法人 京都聖嬰会

皆さんどうぞお立ち寄りください♪



河原町教会 ミサの時間

日曜日 (主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 18:30

土曜日 6:30 18:30

(主日のミサ)

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

水曜日 15:30	一場 修 神父
木曜日 19:00	一場 修 神父
金曜日 11:00	一場 修 神父
金曜日 19:15	村上 透磨 神父
水曜日 10:30 [洗礼準備講座]	ユン・サンホ神父
木曜日 10:30	ユン・サンホ神父
金曜日 17:30	菅原 友明神父
土曜日 11:00	菅原 友明神父
土曜日 17:00	菅原 友明神父

※洗礼準備講座をご希望の方は教会事務室まで

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】第1土曜日 19:30～20:30

菅原 友明神父

【伏見教会】毎火曜日 10:00ミサ後～11:30

ユン・サンホ神父

毎木曜日 14:00 菅原 友明神父

【桃山教会】毎火曜日 15:00 菅原 友明神父

【山科教会】毎火曜日 10:00 一場 修 神父

◇南部地区信徒養成講座◇

(6F会議室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆神父「典礼を学ぶ」

11月14日・12月12日・1月9日

13:30～14:50

◇『ラウダート・シ』読書会◇

(1F集会室/毎月2回 第2・4木曜日)

14:00～15:30

指導: Sr. メリー・レベッカ・我部

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日 9:30～10:15

カトリック河原町教会だより 2018.11・12 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 担当司祭: 一場 修

TEL: 075-231-4785 FAX: 075-211-8021 URL: <http://CatholicKawaramachi.Kyoto>